

【UD 関西・研究会レポート】 第 13 回研究会

▼さる9月8日(土)、関西学院初等部にて『第13回 授業のUD 研究会 in 関西』が開催されました。9月最初の土曜日にもかかわらず、110名もの先生方がご参加。それでも実は、50名以上のお申し込みをお断りせざるを得なかったのです。(ご参加できなかった皆様。すみません。)▼現場の先生方のニーズが、年を追うごとに大きくなっている本研究会。関西支部もその一端をになっていることを肌で感じずにはられない、熱き一日となりました。以下、レポートいたします。

【① 公開授業】

◆関西学院初等部の野村真一先生による、1年生の国語授業でした。学習材は『ゆうだち』。情景描写と心情描写との関係を1年生に学ばせるという大胆な提案。子どもたちによる気づき、「天気(雨など)と心の関係している」という発話を引き出し、クラスの学びとすることができました。一方、野村先生がめざした、「読解を、音読に表現する」ところまでは及ばなかったことは反省点の一つ。しかし、教材文の挿絵を分割し、それぞれを「情景」と「心情」との対応に意識させたことは、UDの視点としても素晴らしい学習活動でした。



【② 研究協議会】

◆司会の元山一則先生(関西学院初等部)が進めた協議会は、なめらかに進行。本時のUDとしての支援や、その効果を明らかにすることができました。パネラーの尾崎朱先生(宝塚小学校)が整理した授業をみる4つの視点(①本時の学習量、②教科学習の視点、③ICT機器の活用、④学級経営のしつけの面)で、授業がよりクリアに見えました。



【③ ご講演・桂聖先生】

◆桂先生のお話の演題は、「国語授業のユニバーサルデザイン ～文学授業のつくり方～」。『モチモチの木』を学習材に、模擬授業形式に進めてくださいました。桂先生の発問と、整理によって次第に明らかになっていく『モチモチの木』の主題。指導者の教材解釈を活

かして、どのような単元づくりをしていけば、学級すべての子どもたちの「わかる・できる」を保証できるかが少しみえてきた、大変貴重なお話でした。



【④ 懇親会】

◆支部の懇親会に、なんと40名もの先生方がご参加。会場は熱気に包まれました。それぞれの地域から集まってこられた先生方の貴重な情報交換の場となりました。ベテランの先生方も若い先生方も、「明日のUD授業づくり」の語らいに、熱くなった宝塚の夜でした。

【⑤ おわりに】

今、関西支部は大変熱いです。見逃すことのできないUD支部の一つとなっています。関西支部では、年間6回の授業研究会を計画しています。皆様の参加をお待ちしています。